

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ブテイ倶楽部南与野		令和7年3月31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		配置基準は満たしており、児童の人数に応じて職員の人数を調整しています。	送迎や個別での対応を行った際に、職員数が不足している場面があるため、想定より少し多い職員数を配置する必要があります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		玄関に段差がありますが、ブロックを設置し声掛けによる注意喚起で事故を未然に防いでいます。	玄関にブロックを設置しましたが、児童が集まっているとブロックの幅が狭く感じるため、追加での設置を検討します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日児童が帰宅後にドアノブやおもちゃなどを含めて徹底的に消毒をしています。	床がすぐに黒くなってしまい、現在電動モップで定期的には磨いていますが、汚れの付着防止についても行っていく必要があります。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて相談室を利用できる環境になっています。	相談室の利用が可能となっていますが、狭く感じられることもあるため、スペースを広げていきたいです。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		毎日朝礼時にその日の狙いや、振り返りを行っています。	ノートなどを用いてパート従業員への共有を行っています。言葉での共有が少ないため、共有できる時間を設定していきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		集計後に職員で振り返りを行い、業務改善を心掛けています。	一度の確認で終わってしまうことが多いため、継続的に改善に繋げていくためにも、定期的に振り返る機会を設けます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		朝礼時や職員会議の際に、意見を把握できる場を設けており、話し合いの上で業務改善に繋げています。	よりきめ細かな支援のために、朝礼や会議の場だけではなく、話し合える時間を設定すると更なる資質向上を狙えると思います。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	現在第三者による外部評価は行っていません。	今後支援を行って行く上で必要性を感じた際には、外部評価を取り入れていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		毎月行われる法人内での研修や、外部研修、市の研修等に参加出来る機会を確保しています。	支援に関する研修だけではなく、企業理念などに対する研修などを幅広く取り入れていきます。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		5領域を踏まえた月間予定表をインターネット上で公開、紙での配布を行っております。	引き続き早めの公開を意識し、保護者様の予定が立てやすい環境を整えていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者様との面談の際に伺ったニーズや課題を基に、サービス計画を作成しています。	面談の際にニーズや課題はお伺いしておりますが、日々課題は変わってくるため、その時に応じた課題を設定していきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		モニタリングや会議を通して職員全体で検討を行い、サービス計画を作成しています。	全員が完璧なまでの共通理解を持つことが難しい場面もあるため、全員が同じ認識になるよう話し合いを進めていく必要があります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		職員間で共有され、ケア記録等に記録を残すことにより、計画に沿った支援が行われています。	職員によって目標に対するポイントの持ち方に対して、多少の差異が発生してしまうことがあるため、定期的な見直しが必要です。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		インターネット上のツールを用いて、児童の適応行動の状況を記録し、確認を行っています。	こちらの項目に対しては個人で確認する機会が多く、職員全体で確認する機会が少ないため、全体で確認する機会を設けていきます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		それぞれのねらいと支援内容を踏まえながら、具体的な支援内容を設定しています。	「移行支援」「地域支援・地域連携」など目標設定から一年経っていないため、年間を通してどのような形だったのか振り返りを行い、より適切な支援内容を目指していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員間でプログラムの立案を行っています。	引き続き職員間で意見を出し合い、プログラムに反映される環境を整えていきます。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	毎月一つ以上は新しい活動を取り入れるよう意識し、児童が楽しめるよう意識して作成しています。	固定化はしないよう工夫をしていますが、課外活動の新しい場所が少ない為、職員間で情報を共有し、活動場所を増やしていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	児童の状況に合わせて個別活動と集団活動を組み合わせ支援を行っています。	職員の人数によっては個別での活動が難しいことがあるため、適宜状況に応じて個別での活動を増やしていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	朝礼時に打ち合わせを行い、活動の流れや役割の確認を行っています。	必ずしも話し合った流れ通りに活動が進まない場合もあるため、イレギュラーも想定した話し合いもより取り入れていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後は、その日のうちに共有しなければならぬ点について共有しています。	朝礼時に共有することが多く、支援終了後には特設時間を設けていない為、今後全体で共有できる時間を設けていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	支援後には全員ケア記録を取る事によって、支援の改善に繋がっています。	一人ひとりの成長に繋がるような、きめ細かな記録を意識して取り組んでいます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	計画書更新の前にモニタリングを行い、適切な見直しを行っています。	モニタリングの見直しは計画書更新のタイミングでしか行っていません。状況に応じて適宜見直しを行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	4つの基本活動を複数組み合わせるよう、工夫して支援を行っています。	引き続きバランスよく複数を組み合わせ、よりよい取り組みを目指していきます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	当日に行う活動や、おやつ選択などを行える機会を設け、自己決定をする力を育てる支援を取り入れています。	自己決定できる機会が少ない為、課外活動の時に行く場所を予め考える時間を作るなどして、自己決定する力を伸ばしていきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	サービス担当者会議等については主に管理者が参加しています。	今後は管理者だけでなく、他職員が参加出来る機会を設け、質の向上を目指したり情報共有を図っていきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	契約の際にかかりつけ医のヒアリング、協力医療機関を設定することによって体制を整えています。	万が一の場合に備え、他関係機関との関係性をより強固にしています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校のお便りによって下校時間を確認し、日々の様子やトラブルについて送迎時などに共有しています。	送迎時だけの情報共有が多く、児童の課題やより詳しい日々の様子について共有できる機会を設けていきます。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	相談員の方との情報共有は行っていますが、保育所や幼稚園との情報共有は現在行っていません。	今後は就学前に利用していた保育所、幼稚園とも連携を取り、支援の質向上に努めていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	サービス障害福祉サービス事業所等へ移行する児童が現在該当しない為、現在行っていません。	今後必要に応じて支援内容等の情報を共有していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	相談支援専門員さんを介して情報共有を行うことはありますが、助言や研修を受ける機会はありません。	研修会などに参加し、児童発達支援センターとの連携を強固なものとしていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	同法人間での交流はありますが、地域の他のこどもたちと関わる機会は少なくなっています。	地域イベントへの積極的参加や、児童クラブとのやり取りで合同での活動を企画し、他の子たちと関わる機会を増やしていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	現在協議会への参加は管理者が行っています。	管理者の参加が難しい場合は、相応しい者を選定し、積極的に参加していきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や必要に応じてお電話等にて情報の共有を行わせていただいております。	発達状況や課題についての共通理解を深めるため、より相談のしやすい環境を整えていきます。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者会の開催は行っていますが、ご家族の参加できる研修は現在行っていません。	今後保護者会の中の一環として、ご家族のニーズ等をヒアリングし、研修の実施に努めていきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	ご契約時に説明をさせていただいております。	引き続きご契約時や負担額の変更等があったさいは、速やかにご説明いたします。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	面談時にヒアリングをする機会を設け、ご意向等を確認しています。	ご家族の意向を確認する機会がありますが、児童の意向を確認する機会が少ない為、定期的に確認できる時間を設けていきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	配布時に支援内容の説明をさせていただいております。	引き続きわかりやすく放課後等デイサービス計画や支援内容の説明を行っています。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や面談時、またはお電話にてご相談に応じさせていただいております。	お気軽にご相談いただけるよう、職員からヒアリングを行い、よりよい支援に繋げていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		定期的に保護者会の実施をしています。令和6年度につきましては運動会を交流する機会として設けました。	懇談会のような場が少なくなってしまったこと、きょうだい同士で交流できる機会があまりなかった為、交流する場の検討や保護者会の内容を検討していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		契約時に苦情担当窓口の説明をしています。苦情があった際には迅速に対応し、改善に努めています。	引き続き迅速に対応できる体制を整え、苦情に繋がらないような支援を心掛けていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お便りを発行しています。その他、web上やSNSで活動の様子を配信しています。	こどもたちが行っている活動をより知っていただくために、今後も定期的に活動の様子をわかりやすく配信していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		毎年個人情報の取り扱いについて研修を行っています。日頃から十分に注意して取り扱っています。	適宜個人情報の取り扱い方について確認し、情報漏洩などに繋がらないよう細心の注意をはらっています。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉だけではなく、ジェスチャーや絵カードを用いて、情報伝達に配慮しています。	引き続き保護者様とは、送迎時や必要時に連絡を取り合い、システムでの連絡帳で意思の疎通を取るよう心掛けています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		令和6年度は地域住民を招待しての行事はありませんでした。	今後必要に応じて開かれた事業所運営を検討していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、研修や訓練を行った際はお便りやインターネット上で周知しています。	引き続き保護者様全員に知っていただけるよう、様々なツールを用いて周知していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し年2回以上避難訓練を行い、防災に対する意識を高めています。	非常事態発生には安全に避難できるよう、防災グッズ等についても適宜見直しを行って行きます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に児童の状況を確認させていただいております。	こどもたちが安心して通所できるよう、引き続きヒアリングを行い、対応していきます。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時や面談の際に、保護者様にアレルギーの有無を確認しています。現在、医師の指示書が必要な児童はおりません。	引き続き契約時や面談の際に、アレルギーの有無を確認し、子どもたちの安全に努めていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		毎月話し合いや研修等を行い、安全管理に努めた支援を行っています。	研修等は定期的に行っておりますが、訓練は研修に比べ不足しているため、今後は訓練を行える機会も増やしていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取り組み内容につきましてはお便り、インターネット上で周知しています。	引き続き広く情報が知れ渡るよう、公開がされた際には送迎時などにもお声掛けをさせていただきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットノートを作成し、情報を共有することによって、今後の対策や改善案を立てています。	今後もヒヤリハットノートを活用し、大きな事故や怪我に繋がる事が無いよう、再発防止に繋げていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に複数回研修を行い虐待を未然に防ぎ、また虐待防止委員会で話し合われた内容を職員に周知し、適切な対応を心掛けています。	引き続き定期的な研修や委員会を行い、虐待を未然に防止していきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束についての研修を行っております。法人として身体拘束に関する指針を作成し事業所に掲示しています。現在身体拘束を行うことは想定していないため、計画書には記載していません。	やむを得ず身体拘束を行う状況が発生しないよう、職員間で対応の仕方について都度確認を行い、身体拘束を行わない方向で支援していきます。	